

うちなあ点描
第百九十一回

沖縄の歴史的建造物の再発見

文・平良啓 Hironu Taira



喜名番所

琉 球王国体制が崩壊し、
て沖縄県が誕生した
明治十二年以降、歴史的建
造物（建物・城壁・橋・
門・墓など）は人々に利用
されつつも、老朽化のため、
あるいはその役割を終えて

撤去されるなどの歴史を歩
んできた。加えて去る沖縄
戦における破壊は決定的だ
った。戦前に撮られた写真
には、もはやこの世に存在
しない歴史的建造物が数多
く写っている。しかし、か

ろうじて戦火をくぐり抜け
てきた歴史的建造物も存在
している。

沖繩版シェークスピア劇
「真夏の夜の夢」とその後
のイベント開催、中城跡
での護佐丸の史劇や映画鑑
賞会、勝連城跡での阿麻和
利の史劇、識名園での古式
のつとつた結婚式やお茶
会、さらに、今帰仁城跡で
の地元の人たちによるボラ
ンティアガイドなど、これ
らの史跡が地元文化の核と
して存在していることが印
象深い。

そのほかの文化財建築物
では、中村家住宅でのコン
サート、伊是名島にある銘
苺家住宅での「しまあか
り」と題した手作りのコン
サートなど。

復元された建物の活用と
しては、首里城での季節ご
とのイベントやほぼ毎日披
露される琉球舞踊、木造で
復元された読谷村の喜名番
所での施設案内や伝統芸能
の披露など。ほかにも、古
民家を喫茶店や食事処、ペ
ンションなどに再利用する
例も多く見られる。

このように、最近では歴
史的建造物の復興と保存、
活用が盛んになっており、
芸能や工芸などの隆盛と相
まって、これらの施設が私
たちの生活の中に自然に溶
け込んできている。

一方で、古民家の老朽化

戦後の
歴史的建造物の復興
沖繩戦によって破壊され、
焼失した歴史的建造物の復
興は遅々として進まなかつ
たが、昭和三十年代以降に
なると、文化財関係者と多
くの人たちの努力で、首里
城周辺の建造物の復元や修
理事業が具体的に動き出し
た。園比屋武御嶽石門や円
覚寺総門、首里城守礼門・
歓会門・久慶門、円鑑池と
天女橋、弁財天堂、玉陵な
どである。そして、平成四
年に首里城跡地が首里城公
園として一部開園し、引き
続き復元整備事業が継続さ
れて往時の歴史的景観が蘇
ってきている。平成十二年
に沖縄県内九カ所の文化財
が世界遺産に登録されたの
は意義あることであった。

近年、県内の歴史的建造
物を活用してのユニークな
イベントや行事が開催され
るなど、興味深い動きが展
開されている。
世界遺産関連では、座喜
味城跡での平成三年九月の

や城壁の崩壊、御嶽などの
拝所の荒廃、さらには井戸
や樋川の水の枯渇、雑草と
木の根によって遺構が埋ま
るなど、深刻な問題も存在
する。これらの課題解決は
緊急を要するが、現実には
厳しいものがある。

以上、沖縄の歴史的建造
物の復興の流れや活用事例
課題などを概観したが、私
たちの生活の中に息づいて
いる習慣などと密接につな
がっているこれらの歴史的
建造物について、もっと関
心を持ちたいと思う。

今回の連載で、歴史的建
造物を築いてきた先人たち
の心の一端に触れることが
できれば幸いである。

● たいら ひろむ / (株) 国建建築設計部長。昭和60年度から本格的に始まった首里城復元のための調査・設計業務・首里城正殿の設計・工事監理業務に携わり、現在も首里城内の建物や県内の歴史的建造物の復元・修理にかかわる。一級建築士、芸術工学博士。



座喜味城跡